

Meinicke 氏溷濁反應 (M. T. R.) 竝ニ Bruck 氏反應 (B. R.) ニ就テ

岡山醫科大學皮膚科泌尿器科教室 (主任皆見教授)

内 田 茂 雄

徹毒診斷上ニ於ケル Wassermann 氏ノ貢獻ハ實ニ千歳不朽ノ業績ト言フベシ。而モ日ニ月ニ新法或ハ變法ノ名ノ下ニ無數ノ診斷法世ニ出ヅルハ何故ニヤ。他ナシ。ヨリ簡單ナル操作ヲ以テヨリ確實ナル検査法ヲ求メントスルノ努力ニ他ナラズンバアラズ。此ノ意味ニ於テ M. T. R. 及ビ B. R. ハ今日行ハルル多クノ反應ノ中最モ優レタル方法ノ一トシテ數フルヲ得ンカ。

吾人ハ最近 617 例ノ M. T. R. 竝ニ 467 例ノ B. R. ニ就キテ各々 Wassermann 氏反應 (W. R.) ト比較ヲ試ミタリ。但シ兩者同時ニ同一血清ニ就キテ検査スル事能ハザリシ者數例アリシヲ以テ今ハ別々ニ報告セント欲ス。

A) Meinicke 氏溷濁反應 (M. T. R.)

Meinicke 氏ニ依リテ發表セラレタル溷濁反應ハ類脂肪結合反應トシテハ殆ド理想ニ近キモノナルベシ。其本態ニ就キテハ既ニ多クノ文獻ニ明カナリ。又之ニ要スル準備操作等ニ關シテハ佐藤氏^{7,8)}ノ詳細ナル報告アルヲ以テ茲ニハ之等ヲ引用スルノ煩ヲ避ケ唯余ノ實驗ニ於ケル成績ニ就キテ述ブベシ。余ノ用ヒタル試薬ハ Adler-Apotheke in Hagen in Westphalen ノ製造ニ係リ武田商店ヨリ販賣セララルモノナリ。

吾人ノ検査セル血清總數 617 例ヲ W. R. ト對照スレバ第一表ノ如クニシテ兩者共ニ陽性(+)ニ出デタルモノ 174 例 28.2%, 陰性(-)ナリシモノ 391 例 63.37%, 不完全陽性(±)ナリシモノ 9 例 1.46% ナリ。故ニ完全ニ一致セル數ハ 574 例 93.03% ニシテ、43 例 6.97% ガ不一致ニ終リタルノミ。又兩者ノ陽性率ヲ比較スルニ W. R. ハ 189 例 30.64% M. T. R.

第 一 表

W. R.	+			±			-		
M. T. R.	+	±	-	+	±	-	+	±	-
例 數	174	4	11	1	9	9	12	6	391

検査總數 617 例

ハ 187 例 30.30% ニシテ兩者殆ド相伯仲ス。

M. T. R. ハ本來濁濁ヲ見ルモノニシテ, 操作後室溫ニ1時間放置シテ成績ヲ讀ミ得ルモノナリ。強陽性並ニ確ニ陰性ナルモノハ十數分間ニテ判明ス。之ヲ24時間放置スレバ沈降反應トシテ其結果ヲ讀ム事ヲ得。沈降反應ニ於テハ濁濁ノ際ニハ判斷不可能ナル陽性ノ程度ヲモ併セ知ルヲ得ベシ。但シ此ノ沈降反應ニテハ Förtig⁴⁾, Behrmann¹⁾ 氏等ノ言ヘル如ク種々ノ原因ニ由リテ非特異ノ陽性ヲ招來スル懼レアルハ亦止ムヲ得ザル事ナレドモ Bering²⁾ 氏ハ M. T. R. ハ沈降反應トシテモ亦總テノ沈降反應中最モ鋭敏ナリトノ賞讃ヲ與ヘタリ。Hohn 氏ハ沈降反應ニ依リ W. R. ト比較シテ實ニ99% (!) ノ一致ヲ見タリ。

今余等ノ例ニ於テ, 24時間後ニ得タル陽性程度ニ依リテ區別スレバ第二表ヲ得。以

第二表

W M	卅	卅	+	±	-
卅	109	13	2		
卅	11	20	5		3
+		1	13	1	9
±		1	3	9	6
-		6	5	9	391

(WハW.R., MハM.T.R., ナ示ス。
卅ハ強陽性, 卅ハ中等度, +ハ弱陽性,
±ハ不完全陽性, -ハ陰性トス。)

下濁濁及ビ沈降ノ兩結果ヲ綜合シテ述ブベシ。

次ニ臨牀上黴毒及ビ黴毒ノ疑ヒ有ル者並ニ全ク黴毒ヲ有セザル者ノ認ムベキ者トニ分テバ臨牀上黴毒ト診定セル104例ニテハ其陽性率 M. T. R. ハ84例80.7%ニシテ W. R. ノ79例75.9%ヨリモ約5%大ナリ。尙ホ黴毒ノ疑ヒ有スルモノヲ合算スレバ130例中 M. T. R. ハ93例71.5% W. R. ハ88例67.7%ニシテ矢張り前者ノ方大ナリ。之ヲ黴毒ノ各期ニ分類スルニ第一, 第二, 第三ノ各期, 先天性黴毒並ニ黴毒(?)ニ於テハ偶然ニモ其陽性率相一致セルヲ見ル。然レドモ第一期黴毒及ビ黴毒(?)ノ血清ニテハ W. R. ノ方陰性ニ出ルモノ多シ。又潜伏期黴毒及ビ治療經過中ノ黴毒ニテモ常ニ M. T. R. ノ方陽性率大ナリ。Förtig 氏モ同様ノ結果ヲ得タリ。

第三表

	黴 毒												黴毒 (?)	
	第一 期		第二 期		第三 期		第二 及 第三 潜伏 期		治療 中 或 ハ 治療 後		先天 黴 毒			
	W	M	W	M	W	M	W	M	W	M	W	M	W	M
+	6	6	12	12	9	9	35	37	16	19	1	1	9	9
±	1	3							2	3			1	2
-	5	3					3	1	13	9			17	16

(第一, 第二, 第三期トセルハ臨牀上其症狀ヲ有スル者ニシテ, 治療中或ハ後トセルハ各期ノ者ナリ。
黴毒(?)ハ初診時何等ノ症狀ナカリシモノナリ。)

第 四 表

	頭 部 癩 腫		副 腎 腫		母 斑		凍 瘡		不 明	
	W	M	W	M	W	M	W	M	W	M
+	1	1	1	2	1	0			98	91
±							1	0	14	11

尙ホ一定ノ少數疾患ニ於テ W. R. ト同シク非特異的ニ陽性ニ來タルモノアリ。(第四表)

但レ是等ノ診斷ハ初診當時ノ診斷ニシテ黴毒(?)ノ内ニハ潜伏性黴毒ヲ含ム事多ク又非特異性ト思ハレシモノモ潜伏期黴毒ヲ併有セシヤ否ヤハ經過ヲ觀察スル能ハザリシヲ以テ不明ナリ。尙ホ表中ニ「不明」ト記セシハ開業醫等ヨリ依頼セラレタルモノニテ診斷不明ナルモノナリ。

次ニ兩者不一致ノ成績ヲ生ジタル血清 43 例ヲ比較スルニ W. R. (+)ニシテ M. T. R. (-)ナルモノ 11 例 25.06%ニシテ W. R. (-), M. T. R. (+)ナルモノ 12 例 27.9% ナリ。即チ其陽性率ハ M. T. R. ノ方稍々大ナリ。之等ヲ村田氏反應(是ハ當牧室藤原氏⁵⁾ノ検査ニ依ル)ト對照セル成績ヲ見ルニ W. R. ト村田氏反應ノ一致セルモノ 12 例 27.9%, M. T. R. ト村田氏反應ノ一致セルモノ 27 例 62.8%, 三者各々相異セルモノ 4 例 0.93% アリ。

第五表 {W. R., 村田氏反應一致シ}
{M. T. R. 相違スルモノ}

W. 村	M	黴毒	黴毒(?)	不明	計
+	±	2	2		12 例 27.9%
	-			1	
±	+			1	
	-	1			
-	+		2	2	
	±		1		

第六表 {M. T. R., 村田氏反應一致シ}
{W. R. 相違スルモノ}

M. 村	W.	黴毒	黴毒(?)	不明	非黴毒	計
+	±					27 例 62.8%
	-	3	1	2	軟下瘡 1 副腎腫 1	
±	+	1				
	-	2	1			
-	+	3	1	2	皮膚炎 1	1 1 1
	±			5	母斑 1 凍瘡 1 健康 1	

W. ハ W. R., M ハ M. T. R., 村 ハ 村田氏反應ヲ示ス。

陽性率ニ於テハ村田氏反應ト M. T. R. ト相似タルモノノ如シ。

前表ニ掲ゲタルモノヲ病類ニ據リテ分類スレバ次ノ如シ。

W. R. (卅)

M. T. R. (±) 混合性下疳	1例 (+)
	M. T. R. (-) 第三期徽毒
第二期潜伏徽毒	1例 (-)
徽毒 (?)	1例 (+)
不明	3例

W. R. (+)

M. T. R. (±) 痔瘻	1例 (±)
	徽毒 (?)
M. T. R. (-) 徽毒 (?)	1例 (+)
皮膚炎	1例 (-)
母斑	1例 (-)
不明	2例

W. R. (±)

M. T. R. (+) 不明	1例
	M. T. R. (-) 徽毒 (?)
凍瘡	1例 (-)
徽毒治療中	1例 (-)

(右端括弧内ノ符號ハ村田氏反應ヲ示ス)

神經衰弱症	1例 (±)	
不明	4例	
健康	1例 (-)	
W. R. (-)		
M. T. R. (卅) 混合性下疳	1例 (+)	
	第三期潜伏徽毒	1例 (卅)
	徽毒 (?)	1例 (+)
M. T. R. (+) 徽毒治療中	1例 (+)	
	副腎腫	1例 (+)
	軟性下疳	1例 (+)
	徽毒 (?)	2例 $\begin{matrix} (-) \\ (-) \end{matrix}$
	不明	5例
M. T. R. (±) 混合性下疳	1例 (±)	
	徽毒治療中	1例 (卅)
	陰部疱疹	1例 (±)
	徽毒 (?)	1例 (-)
不明	2例	

此ノ中興味アル數例ニ就キテ述ベニ、

a) M. T. R. ノ優レリト思ハルル症例.

第1例. 笹○好○. 28歳, 男. 初診大正14年2月20日. 診断. 第三期潜伏徽毒. 既往症トシテ昨年12月ニ W. R. 弱陽性ノ故ヲ以テ「サルワルサン」ノ注射ヲ2回受ケタリト云フ. 経過. 即日血液検査ヲ行ヒタルニ (卅) (卅) (卅) ナリ. (左 M. T. R., 中央 W. R., 右村田氏反應) カクテ4月16日迄ニ「ネオサルワルサン」5回 1.95g. 「ナゲサン」9回 8.5ccヲ注射シタルニ (卅) (-) (+) トナレリ. 更ニ5月23日迄ニ「ネオサルワルサン」2回 1.2g. 「ナゲサン」3回 3.0cc注射セルニ (+) (-) (+) トナレリ.

第2例. 額○長. 22歳, 男. 約50日以前不潔交接ヲ行ヒ20日前ヨリ右側鼠蹊腺多少腫脹セリト云フ. 初診大正14年2月23日. 診断. 右側横痃. 経過. 2月23日血液反應 (±) (-) (+) ナルヲ以テ直チニ驅徽療法ヲ施ス. 純「ネオマンワルサン」4回 1.2g. 「ビスキトール」12回 11.5ccノ注射後即チ4月10日ニハ (±) (-) (-) トナレリ.

第3例. 西○梅○. 34歳, 男. 初診大正14年3月28日. 診断. 第三期潜伏徽毒. 経過. 3月28日ノ W. R. ハ (卅) (此ノ際 M. T. R. 並ニ村田氏反應ハ検査セズ) 4月16日ニハ (卅) (同上). 5月23日ニハ (卅) (-) (+) ナリキ. (但シ此ノ患者ハ治療ヲ他科ニテ受ケ血液検査ノミヲ行ヘルモノナリ.)

第4例. 岩○リ○. 36歳, 女. 初診大正14年1月30日. 既往症. 昨年12月腔壁ニ傷ヲ被リタルニ依リ血液検査ヲ行ヒタルニ陰性ナリト云フ. 然ルニ數日來軀幹ニ瘙痒ヲ缺ケル丘疹並ニ蓄薇疹ノ多數ヲ呈ス. 診断. 徽毒性蓄薇疹並ニ丘疹. 治療及ビ経過. 1月30日. W. R. (卅) ヲ示ス (此ノ際 W. R. ノミ行フ.) 而シテ純「ネオ

タンワルサン」3回 1.0g. 「ビスキトール」8回 16.0 cc ヲ注射シタルニ 2月 27日ニハ(卅)(卅)(卅)トナル. 更ニ純「ネオタンワルサン」3回 1.2g. 「ビスキトール」6回 12.0 cc 及ヒ「ナゲサン」3回 3.5 cc 注射シタルニ 3月 20日ニハ(卅)(卅)(卅)トナレリ. 尙ホ純「ネオタンワルサン」2回 0.8g. 「ナゲサン」3回 3.0 cc ヲ注射シタルニ 4月 9日ニハ(±)(-)(卅)トナレリ. カクテ 4月 29日迄ニ純「ネオタンワルサン」3回 1.2g. 「ナゲサン」3回 3.0 cc 與ヘタルニ(+)(-)(±)ナル成績ヲ示シタリ.

第5例. 林○孝. 21歳, 男. 診断. 混合性下疳. 昨年 10月 W. R. ヲ行ヒタルニ陽性ナリシヲ以テ地方醫ニ「サルワルサン」注射ヲ乞ヒタル事アリト. 約 10日以前陰莖ニ傷ヲ生ジタリトノ訴ヲ以テ本年 3月 2日當皮膚科外來ヲ訪フ. 陰莖下疳面ヲ刺戟シテ出タル漿液ヲ鏡檢スルニ多數ノ「スピロヘータ」ヲ見ル. 當日ノ血液檢査成績(±)(-)(±)ナルヲ以テ 3週間ニ純「ネオタンワルサン」3回 0.9g. 「ナゲサン」9回 8.5 cc 注射シタルニ(-)(-)(-)トナレリ.

第6例. 岡○兼○. 46歳, 男. 本年 2月 18日腦敵毒ノ疑ヲ以テ當院精神科ヨリ照會セラル. 診断. 混合性下疳. W. R. (±) 此處ニ於テ純「ネオタンワルサン」2回 0.7g. 「ビスキトール」3回 7.5 cc 注射シタルニ 2月 25日ニハ(卅)(-)(+)トナレリ.

第7例. 宗○恒. 24歳, 男. 初診大正 14年 2月 9日. 診断. 第三期潜伏敵毒. 經過. 2月 9日. (卅)(卅)(卅). 4月 27日迄ニ純「ネオタンワルサン」3回 1.5g. 「ナゲサン」9回 9.0 cc 注射シタルニ(卅)(卅)(卅)トナレリ. 尙ホ純「ネオタンワルサン」3回 1.4g. 「ナゲサン」3回 3.0 cc 及ヒ牛乳注射 3回 15.0 cc ノ後 5月 19日ニハ(卅)(-)(卅)ナル成績ヲ示セリ.

b) W. R. ノ優レリト思ハルル症例.

第1例. 鴨○千○. 31歳, 男. 初診大正 14年 5月 9日. 診断. 第三期潜伏敵毒. 經過. 5月 9日(-)(卅)(-) 此日ヨリ 5月 19日迄「ネオサルワルロン」1回 0.4g. 「カスピス」3回 3.0 cc ヲ與ヘタルニ(-)(-)(-)トナレリ.

第2例. 野○定○郎. 37歳, 男. 初診大正 14年 1月 28日. 診断. 混合性下疳. 經過. 1月 28日 W. R. (卅) 是ヨリ 2月 6日迄ニ「ナゲサン」3回 2.5 cc 注射セルニ(卅)(卅)(卅)トナレリ. 更ニ 2月 16日迄ニ「ナゲサン」3回 3.0 cc 注射シタルニ(+) (+)(+)トナレリ. 然ルニ 2月 18日ニ再檢査ヲ行ヒタルニ(±)(卅)(+)ナリキ.

第3例. 葛○好○. 25歳, 男. 初診大正 13年 12月 3日. 診断. 第二期潜伏敵毒. 經過. 12月 3日 W. R. ノミヲ行フ. (卅)ナリ. 2月 7日迄純「ネオタンワルサン」8回 3.6g. 「ビスキトール」23回 44.5 cc ノ後 W. R. (卅)トナル. 而シテ 2月 26日迄ニ純「ネオタンワルサン」1回 0.5g. 「ビスキトール」3回 6.0 cc 注射シテ(-)(卅)(-)トナル. 更ニ純「ネオタンワルサン」1回 0.4g. 注射シタルニ 3月 7日ニハ同ツク(-)(卅)(-)ナリ. 其後純「ネオタンワルサン」5回 2.5g. 「ナゲサン」6回 6.0 cc 持續シタルニ依然トシテ(-)(卅)(-)ニ止マル.

c) 非特異的陽性ノ一例.

最後ニ M. T. R., W. R., 並ニ村田氏反應ニ於テ非特異的陽性ト思ハルル 1例ヲ擧ゲン.

患者. 松○彦○郎. 61歳, 男. 初診大正 14年 4月 23日. 診断. 副腎腫. 主訴. 高度ノ血尿. 治療及ビ經過. 膀胱鏡檢査ヲ行ヒタルニ膀胱内ニ著變ナク左側輸尿管口ヨリ盛ニ血尿ヲ噴出ス. 依ツテ即日入院ヲ命ジ. 血液檢査ヲ行ヒタルニ M. T. R. (卅). W. R. (卅). 村田氏反應(卅)ニシテ何レモ陽性ヲ示ス. 而モ患者ハ花柳病ノ既

往症ヲ絶對ニ否定ス。

4月30日左側腎臟摘出術ヲ施ス。摘出腎ノ大サハ約小兒頭大ニシテ全ク一箇ノ腫瘍塊タリ。健康部ハ唯其下端ニ於テ痕跡狀ニ存在セリ。組織的ニ副腎腫タル事明ナリキ。カクテ5月19日再ビ血液ヲ検査セルニ(+)(-)(+)トナレリ。

本例ニ於テハ初メニハ三反應共ニ中等度乃至強陽性ヲ示シタルモノ唯病變部ヲ除去セルノミニシテ何等驅微療法ヲ施サズシテ陰性乃至弱陽性ヲ呈スルニ至レルヲ以テ三法共ニ稍々非特異的反應ヲ示スモノト稱シ得ベキカ。然レドモ其後ノ經過ヲ觀察スル能ハズシテ患者退院セルガ故ニ或ハ潜伏微毒ヲ併有セシヤ否ヤハ決定シ得ベカラザルモ茲ニハ唯多少非特異的反應ノ疑アル症例トシテ記スルニ止メン。

附記。

M. T. R. ノ操作上ノ注意トシテ嚴寒ニテハ氣溫低キ爲メ餘リ多數ノ試験ヲ一時ニナスハ稍々反應ヲ不確實ナラシムルノ感アリ、一時ニ6—7本迄ノ検査ナラバ如何ナル未熟者ト雖モ正確ニ行ヒ得ベシ。尙ホ輕度ニ血球溶解ヲ呈セル血清ハ沈澱器ヲ用ヒザルモ24時間經過スレバ明カニ其結果ヲ讀ミ得ルモノナリ。又多少ノ濁濁ハ殆ド障碍ヲ見ズ。

結 論

- 1) M. T. R. ハ 93% 内外ニ於テ W. R. ト一致ス。
- 2) 試験操作後1時間ニシテ且室温ニテ其成績ヲ讀ミ得ベク、尙ホ24時間經過スレバ沈降反應トシテ(卅)(卅)(+)ヲモ區別シ得。但シ稀ニ非特異的陽性アルコトヲ知ルベキナリ。
- 3) W. R. (-)ノ場合ニ M. T. R. ノ(+)ヲ示ス事アリ即チ初期硬結及ビ治療中或ハ治療後ノ微毒ニ於テ見ラル。
- 4) M. T. R. ノ陽性率ハ村田氏反應ノ夫レト殆ド相一致スルモノノ如シ。

B) Bruck 氏反應 (B. R.)

Bruck 氏反應ハ浮游反應ヲ應用セルモノニシテ其方法ニハ次ノ三種アリ。今假ニ之ヲ第一、第二、第三法ト命名スレバ

a) 第一法

56°Cニ30分間加熱シテ非働性トナセル血清0.2ccニ10%ノ食鹽水0.8ccヲ加ヘ、之ニ0.2ccノ越幾斯ヲ注ギ直チニ20分間電氣遠心沈澱器ニカケル。(越幾斯ハ人間、馬或ハ牛ノ心臟ヲ細末トナシ5倍量ノ「アルコール」ヲ以テ浸出セルモノナリ)然ル時ハ試験管内ノ液ハ透明トナリ其表面ニ白色ノ膜ヲ生ズ。之ヲ振盪スルニ陰性ナラバ再ビ瀾濁性ニ濁濁スルモ陽性ノ場合ニハ小ナル浮游物ヲ生ズベシ。

b) 第二法 (原名 Verbesserte Schnellmethode.)

非働性トナセル患者血清 0.2 cc = 10% ノ硫酸「ナトリウム」0.8 cc ト 0.2 cc ノ越幾斯ヲ加フ。(此ノ越幾斯溶液ハ上述第一法ニ於ケル越幾斯 1.0 cc = 10% 食鹽水 1.0 cc ナ點滴的ニ加ヘタルモノナリ。) 而シテ第一法ト同シク 20 分間沈澱器ヲ用ヒテ其成績ヲ讀ム。

c) 第三法 (原名 Verbesserte Methode ohne Zentrifuge.)

0.1 cc ノ非働性血清 = 10% 食鹽水 0.2 cc ト越幾斯 0.2 cc ナ加ヘタルモノヲ振盪シ其ノママ室温ニ放置ス。而シテ 24 時間後ニ 10% 食鹽水 1.0 cc ナ加ヘテ検査ス。

余等ハ上述三法ニ就キテ各々試験シタルニ第二法最モ優レタル感アルヲ以テ茲ニハ唯第二法即チ Schnellmethode ニ於ケル成績ノミヲ述ブベシ。尙ホ同一血清ヲ働性、非働性ニ於テ検査シタルニ非働性ノ方常ニ其陽性率大ナリ。且又第二法ヲ 24 時間放置セルモノニ於テ前日不明ナリシモノモ時ニハ明カニ判知シ得ルコトヲ認メタリ。余等ハ 20 分後ト 24 時間後ノ成績トヲ参照シテ次ニ述ブルコトトス。

試験血清總數 467 例中 W. R. ト一致セルモノ 430 例, 92.07% ニシテ (+) 142 例,

第七表

W. R.	+			±			-		
B. R.	+	±	-	+	±	-	+	±	-
例數	142	4	12	2	22	3	10	6	266

検査總數 467 例

30.4%, (±) 22 例, 4.71%,

(-) 266 例, 56.9% ナリ。

故ニ相違セル結果ヲ生ジタルモノ 37 例, 7.94% ナリ。(第七表) 之ヲ諸家ノ實驗ト比較スルニ本反應ヲ發表セル Bruck³⁾ 氏ハ 90% ニ於

第八表

W B	冊	冊	+	±	-
冊	79	9			
冊	20	11	1	1	1
+	7	11	4	1	9
±	1	3		22	6
-		3	9	3	266

(W ハ W. R., B ハ B. R. ナ示ス。)

第九表

	例數	+	±	-	陽性百分率
W.	467	158	27	282	33.6%
B.	467	154	32	281	32.9%

テ W. R. ト完全ニ一致シ, Zeisler¹⁰⁾ 氏ハ 93.4%, Teichmann⁹⁾ 氏ハ 84%, 奥, 上野⁶⁾ 兩氏ハ 94

% ノ一致ヲ見タリト言フ。尙ホ之ヲ M. T. R. ト同ジク陽性程度ニ依リテ分類スレバ第八表ヲ得。而シテ各陽性率ヲ見ルニ第九表ニ明カナル如ク W. R. ハ 158 例, 33.6% ニシテ B. R. ハ 154 例, 32.6% 即チ W. R. ノ方僅カニ陽性率大ナリ。

次ニ臨牀上微毒ト診定セル血清 93 例ニ就キテ見ルニ W. R. ノ陽性ナルハ 57 例, 61.2%, B. R. ハ 58 例, 62.3% ニシテ兩者相似タリ.

之ヲ微毒各期ニ分類スレバ兩者ノ間ニ多少ノ差異アレドモ殆ド一致ス。(第十表) Behrmann 氏ニ依レバ第三期微毒並ニ後期潜伏微毒ニテハ W. R. ヨリ遙ニ優レリト云フ.

第十表

	患血清者數	第一期	第二期	第三期	第二三及潜伏期	治及治療中ビ後	先天微毒	計
W	93	1	7	8	20	18	3	57
B	93	2	7	7	21	18	3	58

第十一表

W	+		±		-		W+	W-
	±	-	+	-	+	±		
B	±	-	+	-	+	±	B-	B+
例數	4	12	2	3	10	6	15 40.5%	10 27.0%

W. R. ト B. R. トノ成績相違セルモノ 37 例ニシテ W. R. 陽性ニシテ B. R. 陰性ナルモノ 15 例 40.5%, W. R. 陰性ニシテ B. R. 陽性ナルモノ 10 例 27.0% ナリ。(第十一表)

之ヲ M. T. R. ト同シク村田氏反應ト比較スルニ W. R. ト村田氏反應ノ一致セルモノ 14 例, 37.8% ニシテ B. R. ト村田氏反應ノ一致セルモノ 17 例, 45.9%, 三者各々相違セルモノ 6 例, 7.6% ナリ. 詳細ハ第十二及ビ第十三表ニ明カナリ.

第十二表 {W. R., 村田氏反應一致シ} {B. R. 相違セルモノ}

W. 村	B	微毒	微毒(?)	不明	非微毒	計
+	±		1	1		14 例 37.8%
	-	1		2	結節癩 1	
±	+			1		1 例 神經衰弱 1
	-					
-	+	1	2	2		1 例 軟下疳 1 母斑 1 癩疹 1
	±			1		

第十三表 {B. R., 村田氏反應一致シ} {W. R. 相違セルモノ}

B. 村	W	微毒	微毒(?)	不明	非微毒	計
+	±					17 例 45.9%
	-	1				
±	+		1	1		健康 1 陰部泡疹 1
	-		2	1		
-	+	1		3		軟下疳 1 母斑 1 癩疹 1
	±			1	凍瘡 1	

(W ハ W. R., B ハ B. R., 村ハ村田氏反應ヲ示ス.)

表中微毒(?)ト記セルハ他科ヨリ微毒(?)ノ診斷ノ下ニ血液検査ヲ依頼セラレタルモノ或ハ微毒ノ既往症ヲ有スルモノ。不明トアルハ地方醫等ヨリ送付セラレタル血清ナリ。是等ノ診斷モ初診當時ノモノニシテ微毒(?)或ハ非微毒ノ患者ニシテ潜伏微毒ヲ有スル者アルハ勿論ナリトス。

本反應ハ主トシテ當皮膚科技術員湯淺平一郎氏ノ試驗ニ屬スルモノニシテ M. T. R. ニ比シテ優越セリトモ思ハレズ。W. R. トノ一致率稍々大ナルヲ以テ W. R. ノ一補助法トナスヲ得ベキモ事實上遠心沈澱器ヲ使用シテ一時ニ多數ノ實驗ヲ行フ能ハズ。煩雜ナル點ニ於テ M. T. R. ニ劣ルモノト考ヘラル。且前述ノ如ク遠心沈澱器ヲ使用セザル法ハ之ヲ使用スルモノニ比シテ成績劣ルガ故ニ(但シ奧, 上野兩氏ハ此二法ノ成績相似タリト云フ)余ハ寧ロ M. T. R. ヲ採ラント欲スルモノナリ。尙ホ B. R. ハ極寒ノ時候ニ於テハ成績稍々一定シ難キコトアリ。

結 論

- 1) B. R. ハ W. R. ト 92% ノ一致率ヲ呈セリ。
- 2) 試驗成績ハ操作後直チニ判明ス。且又陽性程度ヲ併セ知ルヲ得。
- 3) B. R. ノ中第二法 (verbesserte Schnellmethode) 最モ鋭敏ナルモノノ如シ。且第二法ヲ 24 時間置ケバ其陽性率増大ス。(14. 6. 30. 受稿)

文 獻

- 1) Behrmann, Dermat. Zeitschr. Bd. 43, H. 1/2, 1925.
- 2) Bering, Zentralbl. f. Bakteriolog., Parasitenk. u. Infektionskrankh., Abt. 1, Orig. Bd. 89.
- 3) Bruck, Serodiagnose der Syphilis. 2. Auflage.
- 4) Förtig, Dtsch. med. Wochenschr. 1923. Nr. 6.
- 5) 藤原皓, 岡山醫學會雜誌, 第 425 號.
- 6) 奥岩吉, 上野直, 臨牀, 第 2 卷第 6 號.
- 7) Goro Sato, Dermat. Zeitschr. 1923. S. 269.
- 8) 佐藤悟朗, 皮膚科泌尿器科雜誌, 第 24 卷第 7 號.
- 9) Teichmann, Dtsch. med. Wochenschr. 1922. Jg. 48, Nr. 48.
- 10) Zeissler, Dtsch. med. Wochenschr. 1922. Nr. 45.

附 記

Wassermann 氏反應ノ本態ニ關シテハ今日尙ホ諸家ガ之ヲ闡明セント努力シテ居ルガ, 昔ノ免疫學ノ解釋即チ抗體及ビ抗體原等デハ説明スルコトガ出來ナクナツタノデ, 今ノ所デハ微毒患者ノ血清ノ「グロブリン」ガ健康人ノソレニ比シテ不安定トナリ, 「リボイド」ニ遭ヘバ沈降スルト説明シテ居ル。實際其「グロブリン」ノミヲ採出シテ之ヲ證明シタ人モアル。近時盛ニ唱ヘラレル沈降反應浮游反應等モ之ニ據テ説明シ得ルコトニナツタ。

瘧, 重症ノ結核, 「マラリア」, 癩等ノ場合ニ稀ニ W. R. ガ陽性ニ出ルコトモアリ,

——但シ其ノ内ニハ多クノ場合ニ上述ノ疾患ト潜伏微毒トガ合併シテ居ルコトハ否定出来ナイ——陳舊微毒ニ W. R. ガ陰性ニ出ルコトモアリ，絶對的ノモノデナイカラ疑ハシイ場合ニハ再三反覆シテ検査スル必要ガアル。又硬性下疳ヲ受ケテカラ凡ソ3週間ハ陰性デアアルシ，驅微療法後 W. R. ガ陰性トナツテモ果シテ微毒ガ治癒シタカ否ヤハ判定ニ苦シム所デアアル。此場合ニ血清量ヲ加減シテ陽性度ヲ多少知ルコトモ出来ルガ，之等ノ缺點ヲ補ヒ，尙ホ W. R. ヨリモ簡單ナ方法ヲ發見セント努力セラレテ，周知ノ如ク Sachs-Georgi, Meinicke (I—III), Meinicke ノ濁濁反應 (M. T. R.), Dold, Bruck, Kahn, 其他非常ニ澤山ノ方法ガ案出セラレ，之等ヲ一々後試スルノ煩ニ堪ヘナイ位デアアル。目下歐羅巴デハ M. T. R. 及ビ Bruck ノ反應 (B. R.) ガ最も良イ様ニ言ハレテ居ル。日本デモ村田氏法及ビ最近北研ノ小林氏等ノ方法ガ報告サレタ。

之等ノ方法ノ良，不良ハ W. R. ト比較シ，或ハ臨牀上ノ所見ト比較シテ定メルガ，W. R. ハ其操作方法ガ處ニ依テ多少異ルコトモアリ，又不完全陽性ノ或ル程度ノモノヲ陰性ニ加ヘルカ否ヤニ依テ其一致率ニ大ナル差異ヲ生ズル。故ニ 90% 以上ニ W. R. ト一致シタモノハ大體良好ノモノト看テ差支ガ無イ。但シ同一ノ人ガスベテノ反應ヲ行ツテ比較スレバ割合ニ確デアアル。或人ガ 95%，他ノ人ガ 90% ノ一致ヲ見タト言ツテモ此成績ニ依テ反應ノ善惡ヲ定メルト言フノハ至難デアアル。多少ノ慾目ガアレバ一致率ノ良クナルコトハ當然デアアル。即チ不完全陽性ノ或程度ノモノヲ陰性ニ入レバ成績ガ良クナリ，又陰性ノ血清ガ多イ場合ニハ一致率ガ高マルノデアアル。余ノ教室デハ藤原及ビ内田ノ論文デハ割合ニ正確ニ比較シタノデ慾目ヲ以テ見レバ一致率ハ尙ホ高クナルノデアアル。

B. R. ハ左程悪クモナイガ次ノ方法ヨリモ稍々劣ル感ガアリ，沈澱器ヲ用井ル法ハ割合ニ煩雜デー時ニ多數ノ検査ガ出来兼ネル。M. T. R. ハ本文ニモアル如ク割合ニ宜シイ。村田氏反應ハ簡短デアリ甚ダ良イ反應デアアル。即チ第一期微毒及ビ治療中ニ W. R. ガ陰性デモ尙ホ且陽性ヲ示スコトガ多イ。故ニ驅微療法ノ標準トシテ甚ダ結構デアアル。但シ溶血シタ血清又ハ濁濁シタモノデハ判讀ニ苦シムコトガアル。小林氏等ノ方法ハ村田氏法ニ類似シテ居ルガ後者ヨリモ讀ミ難イ様ニ思フ。

今日ハ如何ナル方法ガ出来テモ尙ホ W. R. ガ標準トナリ今暫時ハ之ヲ廢スルコトガ出来ナイ。W. R. ノ設備ノ無イ處デハ村田氏法或ハ M. T. R. ヲ行フノモ宜シイガ唯ダ今日ノ所デハ未ダ絶對的ノモノデナイコトヲ承知スル必要ガアル。W. R., M. T. R. 及ビ村田氏法ノ三法ヲ兼ネ行フノガ最もヨイガ，ソレガ出来ナケレバ W. R. ト村田氏トダケデモ充分ト思フ。(皆見誌)

Kurze Inhaltsangabe.

**Ueber die Meinickesche (M. T. R.) und die Brucksche
(B. R.) Reaktionen bei der Serodiagnose
der Syphilis.**

Von **Shigeo Uchida.**

*Aus der Universitäts-Hautklinik zu Okayama (Vorstand: Prof. S. Minami).
Eingegangen am 30. Juni 1925.*

Die Serodiagnose wurde mit der Meinickeschen Trübungsreaktion (M. T. R.) bei 617 Fällen und mit der Bruckschen Reaktion bei 467 Fällen, in Vergleichung mit W. R., untersucht.

Bei der M. T. R. fand die absolute Uebereinstimmung mit W. R. in 93,03% statt. Nach 24 Stunden konnten wir in Form von der sog. Spätflockung den Positivitätsgrad besser unterscheiden. Im seronegativen primären Stadium und in der seronegativen (W. R.) Periode nach der Behandlung war die M. T. R. oft positiv; ihre Positivität stimmte beinahe mit der Murataschen Reaktion (diese Zeitschr. Nr. 425).

Bei der B. R. erschien die verbesserte Schnellmethode besser als die Originalmethode und die Methode ohne Zentrifuge. Die vollkommene Uebereinstimmung der B. R. mit W. R. wurde in 92,07% beobachtet. Nach 24 stündigem Stehen wird ihre Positivität sicher.

Die beiden Methoden können W. R. ergänzen, jedoch sind die M. T. R. und die Muratasche Reaktion nach unserer Meinung besser als die B. R. (*Autoreferat*)